



鈴木ゼミ

算数の授業を実証的に分析・考察し
より良い授業のあり方を追究。

“小学校の授業”を教材として研究に取り組む

小学校の教員をめざす学生が集まる鈴木ゼミでは、算数の授業分析を中心により良い算数の授業のあり方を追究しています。主に二つの柱があり、一つは算数の授業におけるこどものつまずきの研究、もう一つは新しい学習指導要綱で求められている、主体的・対話的で深い学びの姿としてのグループ学習や話し合いのあり方の研究です。「私のゼミの特徴は、参考書や資料による研究だけでなく、実際にこどもがどんな発言や話し合いをするのか、具体的な授業の事例を通して実証的に分析・考察していることです」。鈴木先生がそう話すように、3年次にゼミ生は近隣の小学校の授業に十数回参加し、こどもの発言や話し合いを観察するとともに、授業の様子をVTRで録画し、それを素材としてこどもの理解が深まっているかどうか、どのようなつまずきがあるかなどを分析・考察します。

将来、小学校教員になるための資質を身につける

鈴木ゼミでは、授業以外にも小学校行事の手伝いや放課後に一緒に遊ぶなど、こどもと触れ合う機会を設け、こどもや教員の仕事への理解をより深められるようにしています。「小学校の教育現場をできるだけ体験することにより、こども健康・教育学科の講義で学んだことへの理解を深めていき、将来、教員になるための資質を身につけることをめざしています」と鈴木先生。4年次には、授業の観察・分析・考察を通して得られた気づきから、「算数におけるグループ学習のあり方」「分数のつまずきの分析」などの卒業研究のテーマを設定。こどもへのアンケートや調査を行い、考察をさらに深めて論文を作成します。こうして研究に取り組んだゼミ生の将来への期待を込めて、「こどもの気持ちや考えを大切にする授業づくりができる教員になってほしいです」と鈴木先生は語ります。

